



三用小学校 学校だより

令和7年度第5号 8月（ホームページ用）＜2学期スタート号＞

南魚沼市立三用小学校 令和7年 8月28日



ホームページも
ご覧ください

文責：校長 大関 聡

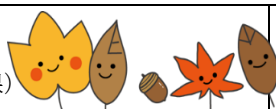
2学期のスタート



土日を含めた35日間の夏休みが終わりました。始業式当日は元気な子どもたちの笑顔とあいさつで、“いつもの学校”が戻ってきたことを実感しました。夏休み中も大きな事故や怪我などがなく、健康で過ごせた様子に安堵しております。子どもたちは多くの時間を家庭で過ごし、手伝いやお家の方とのふれ合いの時間を通して、家族の一員としての自覚を高めたことと思います。地域の皆様につきましては、見守り活動等を通して、子どもたちの健やかな毎日を作ってください、感謝申し上げます。

私たち教職員も子どもたちとの再会を通して、子どもたちの成長に携わる者として、その使命と責任の重さを改めて強く感じました。今後も一人ひとりに寄り添い、励まし合いながら過ごしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

8・9月の予定



8月28日（木）始業式（全校給食後放課）
29日（金）全校5限後放課
9月1日（月）発育測定（1限：低、2限：中、3限：高）
街頭指導日
2日（火）街頭指導日
4日（木）生活朝会 委員会活動
三用保育園年長児来校（低学年体育参観）
5日（金）5年生自然体験教室（サイクリング・ターミナル・水無川）
※4年生は水無川観察に同行する
6日（土）郡市標本展（～7日<日>）
8日（月）6年生校外学習（三用保育園）
9日（火）6年生キャリア教育（市内料理店 店長来校）

11日（木）クラブ活動
12日（金）オープンスクール（終日フリー参観）
任命式・意見発表 夏休み作品展示
13日（土）大和中体育祭
15日（月）敬老の日
18日（木）青空朝会 食に関する指導（3年生）
19日（金）避難訓練（不審者対応）
22日（月）地域の方の読み聞かせ
23日（火）秋分の日
24日（水）FM ゆきぐに給食インタビュー12：40頃
25日（木）大和地区親善陸上大会
（6年生参加：会予備日 ～26日<金>）
全校5限後放課
30日（火）郡市科学研究発表会（五十沢地域開発センター）



学校評価について

1学期の学校評価アンケートにご協力をいただき、大変ありがとうございました。アンケートでいただいたご意見をもとに、2学期以降以下の通り取り組んでいきます。よろしくお願いいたします。

2学期へのアクション

1 学力向上



○基礎・基本の学力の定着

- ・機械的に覚える学習ではなく、思考や操作活動を通して、意味理解や活用ができるように、引き続き指導の工夫をしていきます。
- ・学習の基盤となる言語能力を高めるために、目的意識をもって読み書きしたり、伝え合ったりする時間を多く設定します。（読書の時間の工夫、条件作文、言葉に起こす振り返り活動の継続）
- ・聞く力、聞き合う態度を高めるための指導を行います。
（進んで発言する雰囲気づくり、相手を意識した話し方の指導、自分の考えと比べながら聞く姿勢等）。
- ・反復練習や学び直し（既習内容の復習）を継続的にを行います。

○家庭学習の定着

- ・自主学習に意欲が向くように、自主学習の必要感をもたせます。
- ・課題の多様化を図ります。

○持ち物や学習規律の徹底

- ・学期始めに、各学級で「学習の約束」を再確認し、指導を徹底します。



2 自信（自己肯定感）の育成

○日常的に自分のよさや友達のがんばりに気づき、伝えられる児童を増やす。

- ・日常的に、自分を見つめる場、友達のよさを認め合う場を設定し継続して取り組みます。
- ・全校では、縦割り班、異学年間での伝え合いの機会を設けていきます。（10月の「ハッピーカード」の取組等）
- ・職員もクラスの児童、全校の児童のがんばりやよさを見つけ、伝えていきます。



- 相手の気持ちを考えた言い方ができるようにする
 - ・相手が傷つくような言動があった時は、教職員はその場で毅然とした姿勢で指導をします。また、必要に応じて、学級で話し合います。
 - ・継続してSSE(ソーシャルスキル教育)に取り組みます(2学期:温かいメッセージ、相手の気持ちを考えるなどの活動)。学級で継続した取組ができるよう、振り返りを必ず行います。
 - ・教育相談、家庭との連携を今後も継続していきます。
 - ・異学年や縦割り班、学校外の方々との交流の充実を図ります。(青空朝会、学年間の交流、地域や保育園等)
- 気持ちのよいあいさつや返事の向上を目指す
 - ・職員が率先してあいさつをします。気持ちのよいあいさつや返事について、生活や授業の中で意識して指導します。よくなった点は、分かりやすく具体的に子どもたちに伝え、褒めます。
 - ・学年のあいさつ運動(9月 3年、11月 1年)と関連させて、自分のあいさつはどうか振り返る場をもち、あいさつの意識を高めます。

3 体力の向上・健康な体

- 規則正しい生活やメディアコントロール
 - ・生活リズム等、心配のある児童に対しては、必要に応じて個別指導、保護者への連絡を通して改善を図ります。
 - ・学級担任と養護教諭が連携を図り、生活リズムについて、心配のある児童の把握に努めます。

令和7年度1学期 学校グランドデザインの評価

◎成果は児童の成長や向上についてです。児童・保護者・教職員が評価します。教育活動・運営活動は教職員の取組についての自己評価です。

1学期末に実施しました「学校評価」の結果をお知らせします。

●評価のBは、「全校の70～80%達成」「6学年中、5学年が達成」「各学年の取組を3点満点で評価し、その平均の数値が1.5以上2.6未満」として判断しています。
●Aは「B以上」、Cは「B以下」です。

進んで学ぶ子

評価

学力の向上	成果	国語、算数のワークテスト(単元テスト)が80点以上の児童を80%以上にする。	B
		関わり合い、学ぶことができたとする児童を80%以上にする。	A
		「学年×10分」の家庭学習に取り組む児童を90%以上にする。	C
		外国の人や地域の方など、いろいろな人と関わり学ぶことができたとする児童を全校で80%以上にする。	A
	教育活動	児童が主体的に学ぼうとする授業づくりに努める。	A
		学習の基礎となる言語能力(特に読解力)を高めるための言語環境の整備と言語活動の充実に努める。	B
		話し手、聞き手を意識し、児童相互に関わらせながら考えを伝え合う工夫に努める。	B
	運営活動	家庭学習の習慣化を図る支援を行う。	B
		ワークテストや各種学力検査の結果をもとに指導方法を検討する機会をもつ。	B
		自主学習に主体的に取り組める手立てを講じて、児童の家庭学習への取組の意欲の向上を図る。	B
		学期に1回以上、外国の人や地域の方など、いろいろな人と関わる機会を設定する。	A

進んで学ぶ子

○今年度も昨年に引き続き、「聞き合い・関わり合い・学びを楽しむ」をテーマに学習を進めています。
各学年とも発達段階に応じながら、かかわり方や場を工夫することができたようです。この取組を基として、より効果的な学習のあり方を追究していきます。

○児童アンケートの「授業が分かる」の肯定的評価は93.8%でした。しかし、国語、算数のワークテストの結果は十分とはいえませんでした。基礎・基本を確実に身に付けられるように学習を進めていきます。

○家庭学習は、児童アンケートの肯定的評価は90.8%と高い数値でしたが、学年差や児童の個人差が見られました。個々が目的意識をもって家庭学習に取り組み、習慣化されるよう、家庭と連携を図っていきたいと思います。今後は宿題だけでなく、自主学習にも取り組めるように工夫していきます。

認め合う子

評価

自信(自己肯定感)の育成	成果	互いの違いを認め合い、自分や友達のよさに気付いて伝えることができたとする児童を全校で80%以上にする。	A
		相手の気持ちを考え、協力して活動することができたとする児童を80%以上にする。	A
		進んであいさつや返事ができたとする児童を全校で80%以上にする。	A
	教育活動	児童の活躍の場(学級活動、学校行事、縦割り班活動等)の設定及び、互いの違いを認め合い自他のよさに気付いて伝える活動を充実させる。	A
		グループで協力する活動や学校外の方々(地域民、保育園児、高齢者、障がいのある人など)との交流活動の推進する。	A
		話し合いや振り返りによるあいさつや返事を向上する取組を行う。	B
	運営活動	アンケートや調査の結果、教育相談を生かした学級経営の改善を行う。	B
		「学校いじめ防止基本方針」に基づき、定期的な調査、教育相談、子どもを語る会等を設定する。	A
		自己肯定感を高める活動や振り返りを工夫する。(全校SSE、リハーサル等)	B

認め合う子

○この項目については、例年高い値での結果となっています。
「進んであいさつや返事をする」が児童98.5%、保護者90.4%(肯定的評価)、「相手の気持ちを考え、協力して活動している」児童98.5%、「友達のよさやんばりを認めることができる」が児童96.9%、保護者98.1%といずれも高評価となっています。相手意識は人間関係の構築に大切なことです。引き続き大事にしていきたいと考えています。

○「学校いじめ防止基本方針」に基づいて教育活動を推進しています。今後もよりよい関わり合いを目指しながら、児童に寄り添った教育活動を推進し、いじめの未然防止に努めてまいります。

きたえる子

評価

健康な体・体力の向上	成果	体育や運動が好きだという児童の割合を80%以上にする。	A
		できるようになった運動が増えたり、運動における記録が伸びたりしたと感じる児童の割合を80%以上にする。	A
		自分で決めた就寝時刻を守ることができた児童の割合を80%以上にする。	A
	教育活動	体力テストの結果を基にしためあての設定、課題に応じた運動の工夫をする。	B
		学習カードの活用によるめあての設定と振り返りを行う。	B
		児童の実態に応じ家庭との連携を行う。	B
	運営活動	体力テストの結果を分析し、各個人、学年の課題にあった運動に取り組む。	—
		実態に合わせた運動カードを準備し、活用する。	B
		生活リズム強調週間の取組を進め、児童の実態に応じた指導をする。	B

きたえる子

○「体育では、めあてをもち、みんなと協力してがんばっている」児童の肯定的評価93.8%、「体育や運動をすることが好き」児童の肯定的評価は91%と高い結果でした。今後も様々な運動にふれながら、体を動かす楽しさを味わうことができるように工夫していきます。

○「早寝・早起きをして、朝ごはんを食べている」児童の肯定的評価が98.5%と昨年後期よりさらに上回りました。多くの児童は一日の適正なリズムが保たれているようですが、個人差が見られます。引き続き、学校でも元気よく過ごせるように、家庭での声掛け、ご協力をお願いいたします。

○「ゲームやテレビ、タブレット等(通信機器(ネット))を使う場合も」家の人との約束を決め、守っている」についての児童の肯定的評価が87.7%と昨年後期とほぼ変化はありません。しかし、保護者の肯定的評価は55.8%と低い結果となりました。今やメディアとの接し方は全国的な課題にもなっています。今一度、家庭で適切な利用時間とマナーを再確認していただきますようお願いいたします。